

7仕様

形名	DFR20151A
入力	AC200V 50/60Hz
調光信号出力	12V PWM信号 250mA 無極性
配線長	調光信号線100m以内
使用場所	屋内(ただし、水・水蒸気・直射日光の当たらない所)
使用温度	0～35℃
使用湿度	85%以下 結露しないこと

●直管形蛍光ランプ

連続調光用器具 (インバータ数)	FHF32		FHF86		FLR40S/36		FLR110H/100	
	1灯用	2灯用	1灯用	2灯用	1灯用	2灯用	1灯用	2灯用
	1	1	1	1	1	1	1	1
接続台数	44台	22台	24台	12台	50台	28台	22台	11台

●コンパクト形蛍光ランプ

連続調光用器具 (インバータ数)	FHT32				FHT42		FPL55	FHP32	
	1灯用	2灯用	3灯用	4灯用	3灯用	4灯用	4灯用	3灯用	4灯用
	1	1	2	2	2	2	2	2	2
接続台数	50台	32台	21台	16台	15台	12台	10台	20台	15台

※上表の信号制御用調光器DFR20151Aの接続台数は、スイッチから器具電源をとるスイッチ容量の制限による接続可能台数と信号制御用調光器の最大取付け台数(50台)のどちらか少ない方の接続可能台数を掲載しています。

接続台数は、 $\frac{15A(スイッチ容量) \times 0.7(余裕率)}{インバータ入力電流 \times インバータ台数}$ と、 $\frac{50台}{インバータ台数}$ のどちらか少ない台数

※上表以外のランプの組み合わせによる接続台数は、上記の計算式によります。
但し、照明器具の電源を信号制御用調光器のスイッチからとらない場合の接続台数は、インバータ台数50台までとなります。

8点検

●施工後、動作に異常がある場合は、次の点検を行なってください。

異常内容	確認事項	対処方法
照明が点灯しない	調光器から照明器具への電源線の配線が正しく行われていますか？	電源線を結線図のとおりに配線してください。
照明が調光しない (点灯状態)	調光器から照明器具への調光信号線の配線が正しく行われていますか？	調光信号線を結線図のとおりに配線してください。
	調光器から照明器具への調光信号線が短絡していませんか？	調光信号線を結線図のとおりに直してください。

アフターサービス……ご使用中、もし器具に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店または下記のとこに、器具の形式・故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。
この製品は日本国内専用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。またアフターサービスもできません。



〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12 電話(03)3502-2111

取扱説明書保管用

日立信号制御用調光器
DFR20151A

この説明書は日立信号制御用調光器の取扱いについて記載しております。
よく読みのうえ、正しくお使いください。

安全のために必ず守ること

- 据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよく読みのうえ、確実に行ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重症などの重大な結果に結び付くもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結び付くもの
●お読みになった後は、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。 ●お使いになる方は、いつでも見られる場所に保管し、移設・修理の時は工事される方に、また、お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。	
⚠ 警告	
据付けは、販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据付工事をされ、不備があると、感電・火災などの原因になります。	据付工事は、この取扱説明書に従い確実に行なう。 据付けに不備があると、感電・火災などの原因になります。
据付けは、重量に十分耐える所に確実に行なう。 強度が不足している場合は、本機の落下により、けがの原因になります。	電気工事は、電気工事士の資格がある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」および本説明書に従い施工する。 電気回路容量不足や施工不備があると、感電・火災などの原因になります。
改造・修理は絶対にしない。 改造したり修理に不備があると、感電・火災などの原因になります。 修理はお買い上げの販売店にご相談ください。	煙が出たり、変な臭いがしたら、すぐに電源を切る。 感電・火災などの原因になります。
本機の間隙や穴に金属類を差し込まない。 感電・火災などの原因になります。	指定太さの電源線を指定長さに被覆を剥がし、1本ずつ速結端子の奥まで差し込む。 差し込み不十分は、接触不良により、感電・火災などの原因になります。
本機を布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりして使用しない。 火災の原因になります。	本機の電源を入れたままお手入れをしない。 感電の原因になります。
⚠ 注意	
信号線端子台に＜AC200V＞などの電源線を接続しない。 感電・火災の原因になることがあります。	AC200V以外の電圧で使用しない。 感電・火災の原因になることがあります。
可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ据付けない。 万一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。	乾燥不十分なクロス貼り、コンクリート面には据付けない。 絶縁不良やサビにより、感電・落下の原因になることがあります。
濡れた手でスイッチ、ボリュームを操作しない。 感電・故障の原因になることがあります。	当社指定調光用照明器具以外は使用しない。 器具が加熱して火災の原因になることがあります。
配線は張力がかからないように配線工事を行なう。 断線したり、発熱・火災の原因になることがあります。	本機の電源を入れたままランプを交換しない。 感電などの原因になることがあります。

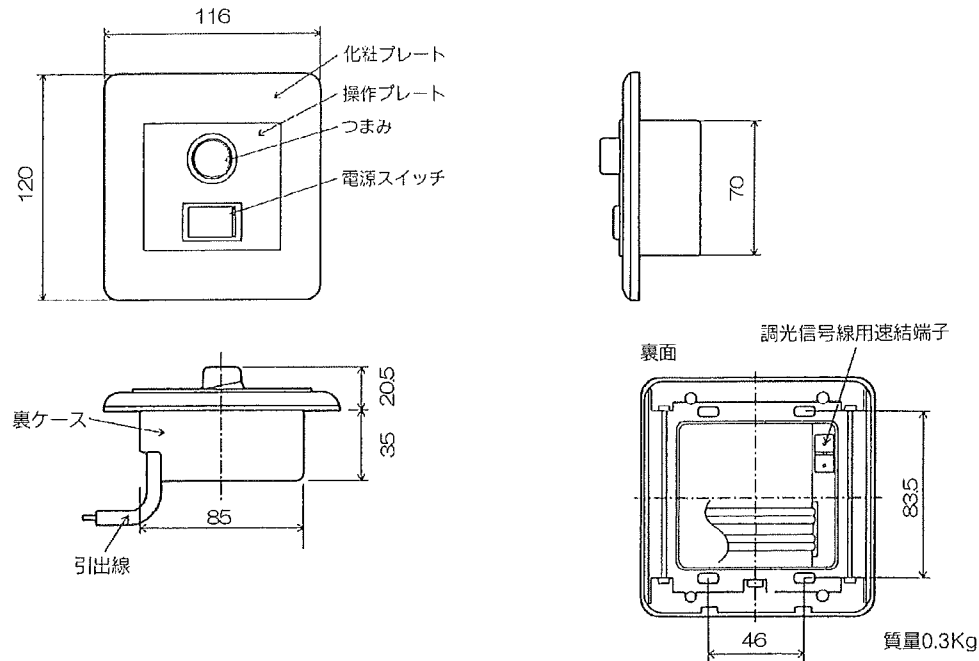
1 使用方法

- 電源スイッチを右側にたおすと照明が点灯、左側にたおすと照明が消灯になります。
- つまみを左右に回すことにより、お好みの明るさに調光することができます。
【ご注意】※調光レベルは接続する照明器具により異なります。
※異なる照明器具を一つの調光器に接続した場合、調光レベルにバラつきが生じることがあります。
※つまみの操作範囲よりも調光範囲が極端に狭い(半分程度の)場合がありますが、異常ではありません。
- 調光したままで、電源スイッチにより照明の点滅ができます。
- 照明を消灯する場合は、必ず電源スイッチを切ってください。

お願い

- 外観が汚れた場合は、化学ぞうきん・シンナー・洗剤などを使用しないで、やわらかな布で拭き取ってください。
- 調光器を、ストーブ・ガスコンロ付近の高温多湿の場所では使用しないでください。
- ご使用中、多少うなりが発生したり、つまみ・プレートが暖くなる場合がありますが、故障ではありません。
- ラジオ・ステレオなどの音響装置付近で使用した場合、雑音障害が生じることがあります。
その様な場合は、次の予防対策を行ってください。
 - ・ラジオ・ステレオなどの装置のアースを確実に行ってください。
 - ・ラジオ・ステレオなどの装置に有効なアンテナを張ってください。
 - ・本機とラジオ・ステレオ・アース線とを、1m以上離してください。

2 外形図



3 部品確認

- 箱の中には、この取扱説明書のほかに必要な部品が入っていますのでご確認ください。
 - 1. 調光器本体.....1
 - 2. 化粧プレート.....1
 - 3. プレート枠.....1

4 現地手配部品

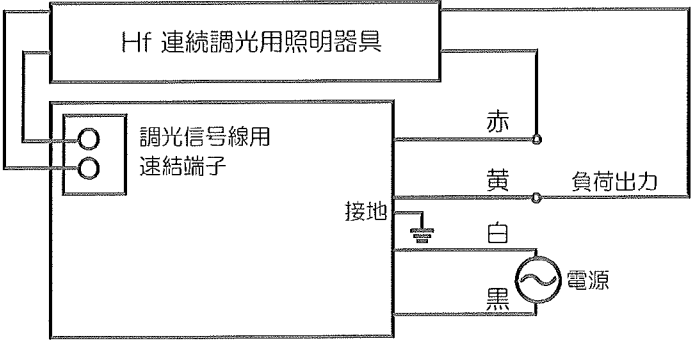
- 据付けには以下のものが必要ですので、現地に手配してください。
 - 1. スwitchボックス 2ヶ用スイッチボックスカバー付き (金属 JIS C8340 樹脂 JIS C8435)
 - 2. 据付用ネジ 十字穴付きナベネジ M4 4本
 - 3. 接続電線 電源線 VVF $\phi 1.6 \sim \phi 2.0 - 2C$
調光信号線 CPEV $\phi 0.9 \sim \phi 1.2 - 1P$

※その他の取付金具を使用する場合には、別途手配ください。

5 結線図

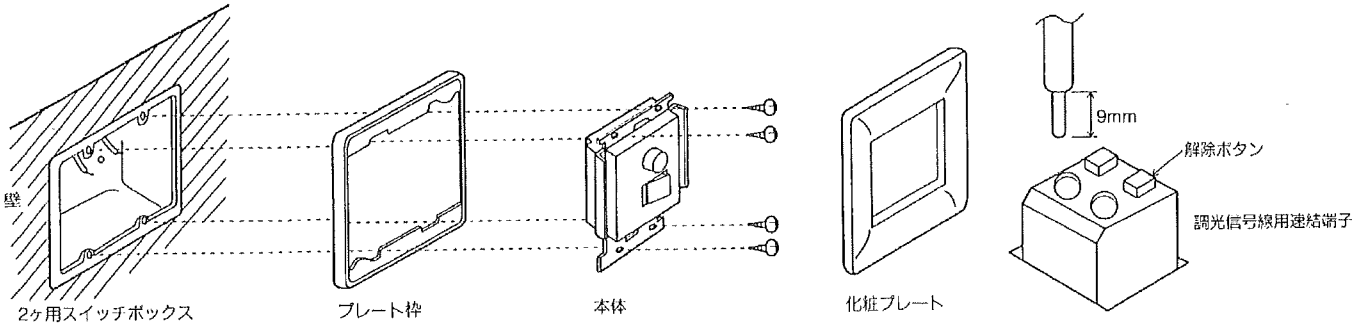
<DFR20151A 配線図(200V用)>

- 1ヶ所点滅の場合(2ヶ所点滅は出来ません)



6 据付方法

- 据付け条件
 - 本機に接続できる照明器具は15A以内です。接続台数は「7仕様」を参照してください。
 - 各接続電線は、動力線・高圧線との近接や束線を行わないでください。また接続電線と動力線・高圧線が平行するときの間隔は下記に従ってください。
600V以下の低圧電力線は300mm以上
その他の高圧電力線は600mm以上
 - 信号線の総配線長は100m以内で行ってください。
- 本体ゲージに合わせて、電源線は10mm、調光信号線は9mm被覆をむいてください。
- 本体をプレート枠にはめ、壁に近づけてください。(プレート枠には表裏／上下があります。「上」表示を本体側にしてください)
- 電源線と引出線を圧着などの方法で確実に結線してください。
- 照明器具の調光信号入力端子からの調光信号線を本機の調光信号線用速結端子の電線穴に、芯線を確実に差し込んでください。(極性はあります)
- 本機を2ヶ用スイッチボックスにネジで取付けてください。
- プレート枠に化粧プレートを取付けてください。
- 調光信号線を外す場合は、調光信号線用速結端子の解除ボタンをドライバーなどで押しながら調光信号線を引き抜いてください。



⚠ 注意	本機の据付けや照明器具への配線作業は、本体の電源スイッチではなく、系統ブレーカーを遮断し行ってください。感電の原因になることがあります。
⚠ 注意	電源線は、むき線部分が外に出ないように確実に差し込んでください。また、差し込んだ後には線を軽く引っ張り、十分に差し込まれていることを確認してください。差し込み不十分は、むき線部分が板金と接触し、感電・火災の原因になることがあります。
⚠ 注意	DFR20151Aの電源配線で、本機の白線を電源のN(ニュートラル)に結線してください。感電の原因になることがあります。